



1

教えて！ 広野町の米について



そろそろ新米の季節ですね。私は広野のお米が大好きです。そこで、今回はお米についてお話ししましょう。

広野町の玄米のスクリーニング検査はどこで行っているんですか。



楡葉町にある「福島さくら農業協同組合楡葉支店」で行っています。実際に行って見学してきました。この日は小麦の袋が置いてありました。また、役場産業振興課の担当の方から話を聞きました。



小麦の袋



ベルトコンベア式放射性セシウム濃度検査器（福島さくら農業協同組合楡葉支店）



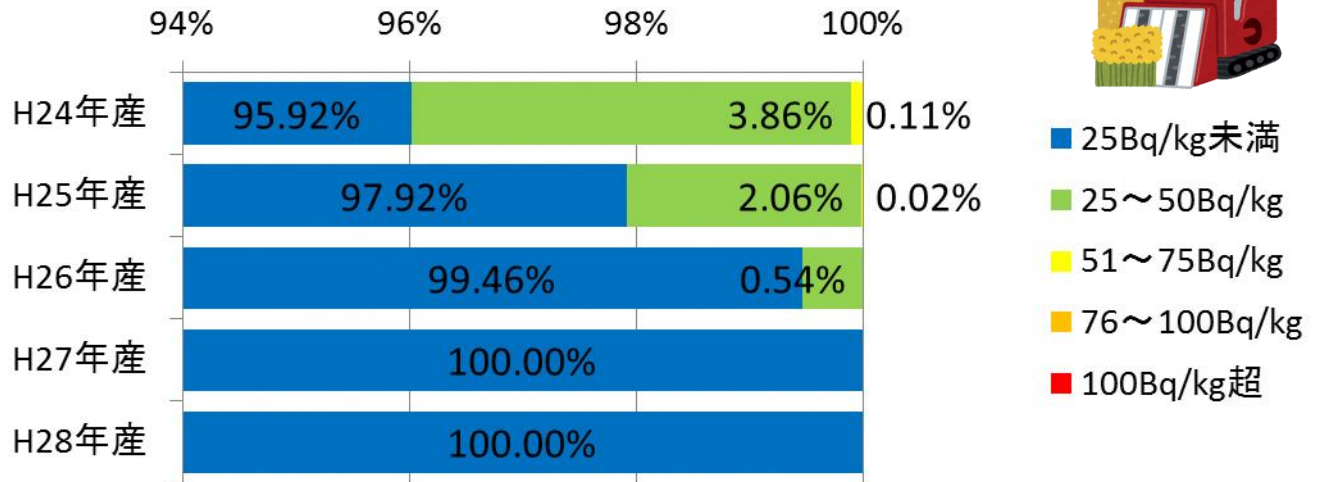
産業振興課担当者

広野町には現在認定農業者が20世帯あります。昨年度は約21,000袋を1台で検査しました。今年の検査は9月下旬頃から順次始まる予定です。農協に提供する米はそのまま納入し、自家消費する米は持ち帰っていただきます。米の全量全袋検査に出している方からは「やはり早く新米を消費者に提供したいので検査に時間をかけたくない」という意見が聞かれます。一方「自家販売する時には、きちんと検査をした保証が欲しい」という意見も聞かれます。

ありがとうございます。私は広野町で行ったスクリーニング検査の過去のデータが気になります。そこで、次のページで、過去の検査の状況を見たいと思います。



広野町 玄米 放射性物質検査



【検査点数】

	25Bq/kg未満	25~50Bq/kg	51~75Bq/kg	76~100Bq/kg	100Bq/kg超	合計
H24年産	871	35	1	0	0	907
H25年産	18,231	384	4	0	0	18,619
H26年産	27,252	148	0	0	0	27,400
H27年産	26,396	0	0	0	0	26,396
H28年産	21,365	0	0	0	0	21,365

・セシウム 134 とセシウム 137 を合わせて集計。

・スクリーニング検査と詳細検査を合わせて集計。

データ出典：ふくしまの恵み安全対策協議会 検査情報

平成 27 年度・28 年度は検査した玄米全てが測定下限値（25 ベクレル/kg）を下回っていますね。



全量全袋検査をすることで、広野の米が安全であることを確認することができましたし、風評被害対策にも役立ってきました。一方で、手間やコストがかかること、出荷までに時間がかかることなども指摘されています。福島県内でも検査の継続・中止に関する様々な議論が重ねられているようです。農家や消費者のためになるよう、よく考えていくことが必要ですね。

食品のモニタリング結果総括表

(平成 29 年 8 月実施分)



【基準値】：一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	20	20	0	
根菜・芋類	0	—	—	
山菜・きのこ	0	—	—	
果物	3	3	0	
穀類	0	—	—	
種実類	0	—	—	
魚介類	0	—	—	
加工食品	0	—	—	
飲料水	0	—	—	
その他(肉類など)	0	—	—	
総検査数	23	23	0	

食品モニタリング結果の詳細については、食品分析検査センター(公民館内)と放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右の QR コードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	放射能簡易分析検査センター(公民館1階)
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30分まで

広野町各地区の放射線量

平成 29 年 9 月 11 日 8 時 10 分現在(天候：晴れ)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率(μSv/h)	測定箇所	放射線量率(μSv/h)
広野小・中学校	0.10	広野町役場	0.11
広洋台地区集会所	0.12	高速バス利用者駐車場	0.18
二ツ沼公園 ^{注2}	0.10	上田郷橋付近 ^{注1}	0.19
長畑地区集会所	0.13	北沢複合交差点	0.17
小滝平浄水場 ^{注2}	0.09	県道広野～小高線沿	0.16
ふたば未来学園高等学校	0.08	仮置場	0.12

注 1 平成 29 年 3 月設置

注 2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地では nGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、μSv/h に換算して掲載しています。



放射線健康対策委員からの 放射線に関するコラム



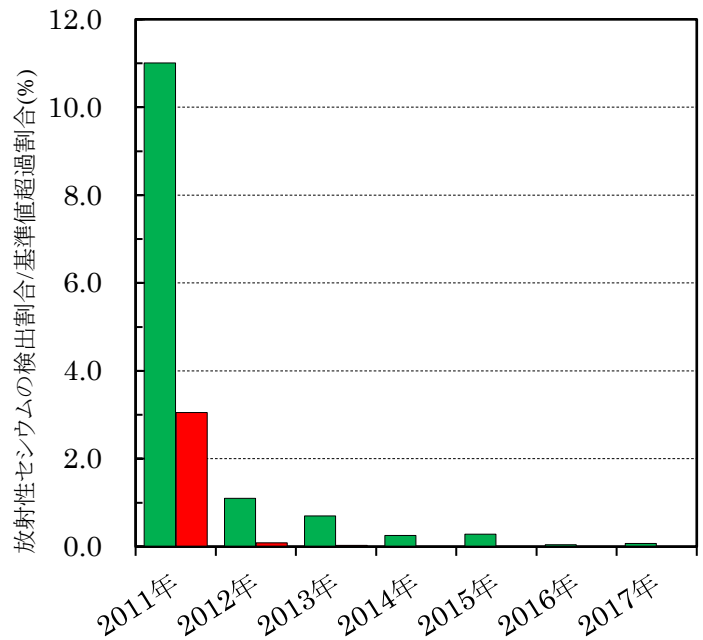
『安心して野菜づくりをするために』

日本大学工学部 生命応用化学科教授 佐藤 健二

福島県では、原発事故後の2011年3月下旬から県内各地域で生産された農産物などについて出荷前の緊急時環境放射線モニタリング検査(ゲルマニウム半導体検出器)を実施し、今年2017年8月までに15万以上の農産物を検査してきています。これら膨大な検査結果の中から町民の皆さまが安心して野菜づくりをして頂くための1つの情報をお届けしたいと思います。

検査された農産物の中の野菜(306品目)の数は約22,000です。この内、放射性セシウム濃度が基準値(100Bq/kg)を超えた数は約100、そして、基準値(100Bq/kg)を超えていなくともセシウム-134とセシウム-137の両方が検出された数は約450となっています。これらの測定結果から放射性セシウムの検出割合を計算し2011年から2017年まで年別にまとめ図(下図参照)にしてみました。このグラフ(図)で緑色(■)はセシウム-134とセシウム-137の両方が検出された割合、赤色(■)は基準値(100Bq/kg)を超えた割合を示しています。

2011年緑色(■)は11%、赤色(■)は3%と高い数値を示しています。これは当時、大気中の放射性セシウムが微粒子のチリと共に野菜に付着し、これを十分に洗い落とさずに検査したためと考えられます。しかし、大気中の放射性セシウムがほぼ土壌に沈着した2012年以降の検出割合や基準値(100Bq/kg)を超えた割合は急減していることが図から見て取れます。これは土壌中の放射性セシウムが野菜へあまり吸収されないためと考えられ、その吸収割合は高くても100分の1以下との報告もあります。機会がありましたら、ご自身の畑の土を測定すれば野菜へ吸収される割合が予測できるかも知れません。広野町に戻られた皆さま方にとって、安心して好きな野菜作りをされるためにこのコラムがお役に立てればと思います。



発行者 広野町放射線相談室 080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係 0240-27-2113